

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875101566		
法人名	医療法人敬愛会		
事業所名	ポートピアシルバーホーム		
所在地	兵庫県神戸市中央区港島中町5-2-3		
自己評価作成日	平成26年11月22日	評価結果市町村受理日	平成26年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 コミュニティ・サポートセンター神戸
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2ビュータワー住吉館104
訪問調査日	平成26年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニットで、入居者はゆったりとした空間で過ごせます。入居者とスタッフが深く関われる時間や空間作りに日々努めており、入居者が落ち着いた雰囲気の中で、個別にあるいは共同で日常生活を楽しめる工夫をしています。また、併設施設での行事への参加や、お出かけ、食事会や料理会の企画といった、日常との気分転換にも力を入れています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は同法人の老健に併設されており、そこには医師や看護師が常駐しており、医療的にも安心できる。1ユニット定員9人が入居しており、リビングや居室もゆったりと広く、静かで落ち着きを感じられる。経験を積んだ正規職員が多く、利用者も安心安全に生活を送ることができる。地理的に地域との関わりが少ないが、できるだけ買い物に出かけたり、前の公園を散歩したり、老健内の行事に参加するようにしている。レクリエーションや法人主催のお祭りには地域の住民や家族も参加している。利用者にも少しでも季節感を感じてもらおうと今年は庭の畑の土壌改良をし、いちごやスイカを植え、利用者と一緒に見守り育て、おやつとして甘い果物に舌鼓を打った。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

グループホーム ポートピアシルバーホーム

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し、理念に基づいた援助ができていないかを見直し、常に意識できるように心がけています。	理念が書かれた紙を事務所の壁に掲げている。いつでも職員が理解しながら日々の介護に意識して取り組むことができるように心がけている。	全職員が理念を共有し、意識を持って日々のケアに反映できているかを確認することが大切です。月に1回のミーティング時に、理念について唱和したり話し合う機会をつくられてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的なものではないが、隣接の介護老人福祉施設の行事等に参加するなど、交流の機会を設けるようにしています。	傾聴ボランティアとして近くの大学から二人の学生が来ている。同じ建物にある老健で行われた保育所の子どもたちの合唱会に参加した。また、隣の別法人の夏祭りにも出かけた。地域との交流に力を入れているが、周辺には民家が近く難しさを感じている。	北隣には他法人の介護施設があるが、周辺は企業の建物や駐車場となっています。少し離れたところに公営マンションが数棟あり、地域の住民が訪ねて来るような工夫と取り組みを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あんしんすこやかセンター職員を通じて、リフレッシュ教室の一環として、不定期で地域の方々を対象に見学会をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回の会議内容をスタッフ全員に報告し、会議内での意見や提案を共有して、援助や業務に活かせるよう取り組んでいます。	運営推進会議には入居者、家族、あんしんすこやかセンター職員、協力医が参加している。活動内容や入居状況を報告している。家族の参加が少なくなってきたので、電話で協力を依頼している。	事業所が地域密着型サービスとしての役割を果たすためには、近隣住民の参加協力が必要となります。地域の自治会や老人会、民生委員の方などに運営推進会議の説明をして理解していただくよう話し合いを持ち、根気強く取り組まれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業運営を行う上で、問題や疑問点があれば、市町村担当者に実情を伝え、課題解決に向けて、ともに取り組む努力をしています。	グループホーム連絡会が年に4回あり、行政の職員も参加しているので、制度上の利用方法などを相談している。困難な事例などを通して行政との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる行為の項目を提示し、常に確認できる様にしています。現状、玄関は施錠している状態が殆どであり、安全面との兼ね合いに苦慮しています。	身体拘束担当委員が具体的な行為を示し、ミーティングで確認している。法人の研修会にも参加している。玄関の鍵は入居者が早朝に一人で外出したことがあり、安全のために施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	援助において、気づかずに虐待に当たる行為を行っているという事態が起きないように、虐待についての項目を提示し、常に意識できるようにしています。	虐待についての注意点を事務所の壁に掲げている。全体研修を行なった。さらに外部研修も受講して全職員に伝達して話し合い、周知徹底を図っている。	

自己評価および第三者評価結果

グループホーム ポートピアシルバーホーム

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム独自の研修として、スタッフ個々に学習しています。今後さらに理解を深め、必要な方への支援ができるよう努めます。	現在、成年後見制度を利用している人はいないが、家族関係の複雑な家庭もあり、今後情報提供が必要となることが想定できる。権利擁護に関する研修に取り組む意向がある。	
9	(8)		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項に基づいて説明を行い、不明な点は随時、管理者やスタッフが対応し、ご理解と納得が得られるよう努めています。	契約書、重要事項説明書についての説明は、管理者が入居前に本人や家族に丁寧に行っている。「終末期に関する確認書」は作成しているが、実際の看取りについては、本人の状態を見ながら家族と話し合っていくと考えている。	
10	(9)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家人の面会時に、こちらからの報告や連絡に意識が傾きがちで、家人の意見や要望を聞く態勢は十分とはいえません。家族の方が気兼ねなく、意見・要望を伝えられるよう、投函用紙をおくなどして工夫をしています。	年末に家族アンケートを行い、希望を把握している。食事に関する要望はあるが、アンケートは面会家族に限られており、全員の意見は聞き取れていない。運営推進会議への出席も呼びかけているが、参加者は少ない。	運営推進会議の前後に家族会や懇談会、お茶会などを催し、利用者や家族相互の交流の場として参加を促し、意見などを表せる機会をつくられてはいいかがでしょう。
11	(10)		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者のケアについての課題や、業務における提案などはスタッフ主体で行っています。新規入居者の受け入れも、スタッフの意見を反映させています。	朝夕の申し送り時や月に1回のミーティングで職員の意見を聞き、コミュニケーションを図るよう心がけている。外出や料理会の提案、新規入居者の検討会など話し合っていて決めている。	
12			○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの勤務状況や個々の努力を把握し、資格取得に向けての支援を行い、意欲を持って従事できるよう努めています。		
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修への積極的な参加をはじめ、認知症介護実践者研修やリーダー研修の受講とその職場内実習を通じたスタッフ全体での取り組みを図っています		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度より、神戸市中央区GH連絡会に、管理者とスタッフ1名で参加しています。他事業者との情報交換により、有用な情報を取り込むよう努力しています。		

自己評価および第三者評価結果

グループホーム ポートピアシルバーホーム

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、家人の要望や利用者本人の今までの生活歴に耳を傾け、ゆっくりと人間関係の構築と情報の共有に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期には情報が充分ではないため、コミュニケーションをとりながら不安心配を取り除くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフ・主治医・併設施設の医師、看護師・相談員や近隣ボランティアと連携し、適切なサービス利用に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個性を尊重し、できること・できないことを見極めながら、入居者とスタッフ、ともに楽しく心をかけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、電話による連絡、交流会の際等に、ご意見・ご要望を拝聴し、家族と相談しながら適切なケアを目指しています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家人・知人との面会や、なじみのスーパーでの買物、見慣れた景色の散歩などを支援しています。	ポートアイランドの島内からの入居者はほとんどいない。地理的な距離もあり昔からの友人との交流は少なくなっている。近くのスーパーへは交代で買い物に出かけている。馴染みの人や場所と継続的な繋がりができるよう工夫したい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士に相性の良さ悪しがありますが、その人の個性を把握し、スタッフが介入しながら、入居者同士の関係がよい方向に向かうよう努めています。		

自己評価および第三者評価結果

グループホーム ポートピアシルバーホーム

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的な相談・支援は行っていませんが、退所後併設介護施設へ入所された方やその後家族とお会いした際には、その後の様子をお聞きしたり、ご本人との会話の場をもてます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の表情や言葉から常に本人の意向を感じ取り、精神的な負担にならないように入居者の思いを大切にしてお話を聞いています。	一人一人に日常の会話の中から希望や意向を聞くようにしている。また、その人の表情や家族への聞き取りから本人の意向をくみ取っている。買い物をしたいという利用者の希望に応え、家族に確認を取ってから買い物に行った例もある。	その人の経歴から、日々の暮らし方をもっと積極的に何ができるのか、何がしたいのか、どこへ行きたいのか等、具体的に聞いてみてはいかがでしょうか。
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常のコミュニケーションを大切に、会話の中からこれまでの暮らしの把握に努めています。家族の方ともコミュニケーションを多くとるように心がけ、信頼関係の構築に努めています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムを把握し、その人のペースで負担のないよう声掛けし、意向を聞きだしています。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画・モニタリングとも、計画作成担当者を中心に全スタッフ、家族の方の意見を取り入れて、よりよい計画の作成に努めています。	朝夕の申し送りや月1回の会議、3か月に1回のモニタリングやカンファレンス、担当者会議、本人、家族の意見を反映し、介護計画を立てている。緊急の場合は申し送り時に話し合い、介護計画を変更する場合もある。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画記録をはじめ、申し送りノートへの記入により、小さな変化により早く気づけるように努めています。気づきによって出る課題について常に話し合い、ケアに反映できるようにしています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況を把握しながら、医療機関受診の同行を依頼したり、場合によってスタッフが援助しています。その時点でできる柔軟な対応を心がけています。		

自己評価および第三者評価結果

グループホーム ポートピアシルバーホーム

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあいセンターでのカラオケ喫茶の参加が利用者の意向で、現在行っておらず、地域との交流が不十分です。今後、新たな交流の場を設けるべく検討を続けています。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の診療所より月2回の居宅療養管理指導を受けています。かかりつけ医と連携をとり、スタッフが日々の健康状態を細かく伝えるなど、適切な指導を受けられるよう努めています。	ほとんどの利用者が近隣の診療所をかかりつけ医としており、月に2回の往診がある。遠縁にあたるかかりつけ医が往診に来る利用者もある。歯科や皮膚科等他の通院は原則家族が行っている。緊急の場合は家族に連絡をし、職員も付き添う。	家族からも歯科検診の希望があるのと、自分の歯でおいしく食べることは健康と長寿につながり食べる楽しみが増えると思います。歯科検診と口腔ケアの往診の継続をされてはいかがでしょうか。
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設との医療連携により緊急時の協力を受けています。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、サマリー等により入居者の情報を詳しく知らせ、連絡・相談を密にして、よりよい関係作りをしています。	今年度、入院に至る事例はなかった。入院までに急を要するときは、同法人の老健の医師へ情報提供し、受診することで入院が防げている例がある。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルに関するご本人の意向、又は家族の意向に添いながらも、関わる人たちとの連携の必要性も重視していく必要があります。	重度化や終末期に向けた方針は話し合い継続中である。現状では、同法人の老健への入所を紹介するとともに、利用者本人や家族の希望するところが決まるまで支援している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練は、定期的に行っていませんが、急変や事故発生時には併設老健の看護師に連絡し、対応について助言いただいています。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練の実施と、避難マニュアルを策定しています。	年2回の消防避難訓練は利用者と一緒にやっている。避難経路の確保、衛生品を備蓄しているが、食糧や水は同法人の老健で保管している。事業所の周辺は住宅が少ないので、企業との防災協力を検討中である。	夜間を想定した訓練や地震による津波予想被害を確認し、災害時の問題点などを話し合い、避難訓練を実施されることを望みます。

自己評価および第三者評価結果

グループホーム ポートピアシルバーホーム

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを損なわないよう、スタッフ全員が常に意識し、親しき中にも礼儀を忘れず、一人ひとりの人格を尊重した対応を心がけています。また守秘義務や権利擁護などの研修も行っています。	プライバシーについての研修は今後の研修計画に入れる予定である。居室やトイレで失禁をした場合は着替えをした後、汚れ物は他の利用者に見えないように配慮し、取り扱う。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が難しい方に、その様子や行動の観察により、何がしたいのか、どこへ行きたいのか等の思いを把握できるよう注意深く見守りながら、サポートしています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常における決まった予定はありますが、その都度入居者の方々に確認を取りながら、ご希望に添えるよう臨機応変に対応し、ご本人のペースにあわせた暮らしを最優先しています。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際ご自分で決めかねる方には、何気ないアドバイスでサポートします。髪や服装の乱れがあれば、人格を尊重しながら、プライバシーに配慮し支援を行っています。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる範囲で下膳を行っていただいたり、必要な際は援助しています。月2回のお料理会を企画し、昼食やおやつ作りを手伝っていただき、スタッフを交えて楽しんでいただいています。	朝食はパンかご飯のいずれかを選択できる。ご飯は事業所内で炊いている。盛り付けを職員と一緒にする利用者もある。月3回の手作りメニューの中で寄せ鍋が好評だった。希望の回転寿司等も出かけた。皆で育てたいちごやスイカをおやつに楽しんだ。	利用者の食べたいものの希望を聞き、一緒に買い物に行き、一緒に作ることを、食べることを増やすため、手作りおやつから取り組まれてはいかがでしょうか。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を日々記録し把握しています。食事摂取量が少ない時は体調の変化を観察し、必要時食べ易いものへの変更を行っています。水分摂取量が少ない方には、好みの飲み物への変更を家族の協力を得て行っています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者それぞれの能力に差があるので、個別にあわせた口腔ケアを行っています。自分でできる方にも声掛けと見守りを、自分でできない方には援助を行っています。		

自己評価および第三者評価結果

グループホーム ポートピアシルバーホーム

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄記録をしながら、ここの排泄状況を観察し、パターンの把握とそれぞれの排泄にあった援助をしています。	排泄は、ほとんどの利用者が自立している。そっと観察し、排泄表に記録している。便秘に気を付け、トイレで出たことを伝えにくい利用者は、そっとトイレへ入り観察するようにしている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から薬剤を使用している方もそうでない方も、便状を観察し、主治医と相談の上、スムーズに排便できるよう、常にカンファレンスで課題にあげています。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の入浴日をとっていますが、他の日に入浴希望があれば対応可能です。その時の状況により変更しています。入浴希望されない方がある場合はご本人の意思を尊重しながら、入浴のお誘いをしています。	2~3人が入れる大きさの浴槽であり、利用者も浴場に行く感覚で入浴を楽しんでいる。以前通っていた銭湯などを懐かしむ利用者もある。入浴の他に週2日はおしゃべりしながら足浴を楽しんでいる。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事前や更衣などの声掛けは行いますが、入居者の希望にあわせ、自由に休息を取っていただいています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し、服用されている薬剤の内容を全スタッフが把握できるよう努めています。また居宅療養管理指導により、状態の変化に合わせて処方を受けています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個性を活かして楽しんでいただけるよう、それぞれにあったレクリエーションをする他、皆様と一緒に楽しめる遊びも行き、日々の変化に努めています。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買物や散歩の機会に援助しています。また、レクリエーションの企画として団体で近隣へお出かけをしています。面会が少ない家族の方や地域の人々からの協力は十分ではありません。	天気の良い日は事業所の周りを散歩したり、近くのスーパーへ歩いて買い物に行ったりしている。弁当を持って須磨浦公園へ花見に車で出かけた。また、近くの大学の喫茶店でお茶を楽しむこともある。	

自己評価および第三者評価結果

グループホーム ポートピアシルバーホーム

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として個別に管理し、ご希望にあわせて好きな時に使えるように援助しています。入居者の中には、手元にないと不安な方もおられるので、希望で所持されている方もおられます。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、事業所内の電話で自由に家族や友人と話せるよう支援しています。また、自身の携帯電話をお持ちの方もありますが、普段はホームで預かり、使用時にお渡しするようにしています。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁などに行事の写真や月々に合った絵や装飾をし、季節を感じられるように配慮しています。また共用空間は常に入居者の目線から考え、生活し易い空間作りに努めています。	リビング兼食堂は明るく広い。ソファーに腰かけてテレビを見ながらくつろいでいた。キッチンの壁に手造りの大きな字のカレンダーが貼ってあった。廊下の壁板には利用者手作りのフェルトのクリスマスツリーや折り紙で作ったポインセチヤの花等が季節感を出していた。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	記の合う入居者同士が楽しく会話できるように、テーブルを4箇所に分け各々が気兼ねなく過ごせるように配慮しています。ソファを3ヶ所に設置し、一人でもゆっくりとくつろげる空間にしています。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるものや思い出のある品々を持ち込んでいただき、個人に合わせた環境づくりをし、居心地のよい空間になるように取り組んでいます。	部屋には備え付けの洗面台、物入れがある。自宅から洋服ダンスや仏壇などを持ち込んでいる。女性の利用者で、使い慣れた鏡台を持ち込んでいる方もある。居室のドアに大きな字で書かれた名札が貼ってあった。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者それぞれの身体機能に添った援助をしています。日常生活において、入居者が心身ともに負担のないよう心がけています。		